

# 佐渡米通信 こめ〜る 9月号



8.28 佐渡平野部 田んぼの様子



8.29 真野地区 稲刈りの様子



9.2 加判バスター受入開始



9.11 岩首集落 棚田の様子

昨年は、8月20日頃から倒伏し始めて品質の良くない結果となってしまいましたが、本年は8月28日現在で、適正に中干しを実施した効果もあり、品質に影響するような倒伏は見られません。今年こそは、美味しさに加えて品質も良いお米を皆様にお届けできそうです。

## 新規就農者懇談会

8月22日に、JA佐渡では新規就農者が安心して就農できるように、地域の担い手や住民との関係づくりをサポートするため、新規就農者16名を含む、担い手支援の各関係機関を招いて、参加者52名で懇談会が開催されました。

関係機関から新規就農者には、園芸振興作物についてや稲作の総仕上げポイント、米穀等販売情勢報告について提案や報告がなされ、新規就農者からは、農業経営に関することや直売出荷の際の売れる商品づくりに関する情報と指導の強化等、たくさんの意見や要望が出されていました。



米の品質を分析する作業



検査用の米を採取



JA佐渡26年度産米初検査



9月12日に、初検査が行われました。早生4品種(五百万石、こしいぶき、あきたこまち、ゆきん子舞)合計1,083袋を検査し、1等米比率は86.7%、粒張りが前年・平年よりやや劣るという評価でした。品質状況は、カメムシによる着色粒の被害は少ないものの、心白粒・青未熟粒が平年より多くみられるとのことと、これから収穫期を迎えるコシヒカリについても適期刈取りが重要であるとの講評がありました。



を把握することが大切」とおっしゃっていました。「鍼灸の仕事も有り大変だけど、生まれ育った故郷に少しでも貢献できればという思いでいっぱいです」と話していただきました。

今年から新規就農者として農業に取り組み始めました。米を中心に野菜もJAに出荷しています。野菜作りで一番難しいのは、どんな野菜を作ったら売れるのかを判断すること。珍しい野菜を作りたいと、家の光協会の「野菜畑」を購読しているそうです。珍しい種を購入して、出来た野菜は直売所にも出荷しています。思うように売れない野菜もあり、「常に消費者のニーズ

椎優さん(45) (しらすん) 佐渡市の出身で、5年前に佐渡へ戻り、現在畑10アール、水稲120アールに取り組んでいます。 地理学を専攻し東京の大学へ。卒業後、アルバイトをしながら、お金を貯めて海外へ……。外の世界を見たかったそうです。 30歳までは、主に東南アジア、それからヨーロッパ、ニュージーランド、中国などの国を訪れたそうです。子供の頃の夢は鍼灸の仕事、30歳過ぎてから夢を叶えるために、宮城県の専門学校に入り、資格を取り、40歳で佐渡へ戻り開業しました。 実家は農家のため、集落で農業をやる人が減ってきたことを知った時に、農地を守りたい気持ちがあつて、今年から新規就農者として農業に取り組み始めました。米を中心に野菜もJAに出荷しています。野菜作りで一番難しいのは、どんな野菜を作ったら売れるのかを判断すること。珍しい野菜を作りたいと、家の光協会の「野菜畑」を購読しているそうです。珍しい種を購入して、出来た野菜は直売所にも出荷しています。思うように売れない野菜もあり、「常に消費者のニーズ



編集人：佐渡農業協同組合

営農事業部米穀販売課 渡部・買(まい)

[beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp](mailto:beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp)

発行日：平成26年9月

